

小沢映子後援会だより

④

四つ葉のクローバー

一年がたちました

昨年四月の市議会議員選挙が終わり、五月から議員活動を始めてちょうど一年が経ちます。

まだまだやる事がたくさんある、もっともっと勉強を、とあせりながらも一年、良きにつけ悪きにつけいろいろな経験ができました。

市会議員は富士市全体の問題に取り組むべきと思っていました。地域の役員や顧問に自動的になっていたり、地域の行事にはできる限り参加して、他の議員と順番に挨拶をしなければならなかったり、これでは市会議員は地域代表という、考えを地域に住む方が持つわけだと思いました。

私の住んでいる今泉地区でも行政懇談会の準備のため地区の会合が開かれました。参加者のほとんど、というより中心は町内会長です。出る議題といえば、何処そこの側溝を直して欲しい、網ボタをつけて欲しい、土管をきちんと欲しい、暗渠をやってほしい。全部が全部こんな内容なのです。どぶが全部こんな言葉があります。どぶが全部こんな言葉がありました。

地域の安全は確かに必要なことです。危険箇所については優先するべきですが、とにかく目に見えるどぶ板のみが地区の懸案というのは、町内会長がほとんど全部といっていいほど年配の男性だからに他なりません。介護や子育て女性の問題だって地域には厳然とあるはずですよ。

自民党の亀井静香議員と元朝日新聞論説委員の大熊さんとの会話です。「亀井さんがお倒れになったらどうなさいますか?」「私には三歳年下の妻があります」「うちには、優しい嫁がいます」「男性は多かれ少なかれ俺の老後は女房が看ってくれるそんな程度の認識です。」

今泉女性の会の総会で、上記の話をさせていただきました。後日会長から皆そのとおりと共感をしてくださっていたと聞きました。

「小澤さんと呼ばばいいよ」「えー、来てもらえないものなの?」という具合に女性議員が全然身近でない存在だということ、政治や市の施策に意見を述べる窓口は最初からないものと考えていることが分かりました。会報発行、市政報告、街頭演説等、方法はいろいろあるでしょうが、私自身ももっと多くの女性の身近なものになって、どぶ板のみを排除するべく女性の意見や知恵が直接行政に届く地域づくりも必要だなと感じています。



市議会レポート

「フィランセ」 利用について

富士市フィランセは、昭和六十二年七月完成の西館に続いて、さらに十五億余かけ、平成十四年三月東館も完成致しました。フィランセは「保健福祉センター」「男女共同参画センター」「消費生活センター」「ファミリースポーツセンター」「地域子育てセンター」「ボランティアセンター」「社会福祉協議会」など市民の生活にかかわりの深い様々な機能をもった複合施設です。ハード面では素晴らしいのですが、使い勝手が悪く、ムは貸し館ではないので、断られ利用者から様々な不満の声が聞かれました。

例えば、自閉症など重い知的障害の子供たちが、実際のお店で買い物訓練をする前段階としてフィランセの一室を借りて買物の練習をすることになりました。親たちは駄菓子を用意して手作り品物を作りました。ところが、本物の金を使うのはいけないと言わ

れ、急ぎよ紙のお金を作りました。

フリーマーケットのような営利事業はだめとの理由です。でも本当は紙では買物練習にならないのです。重度の身体障害児のリハビリグループがあります。リハビリの資格をもった教師がボランティアで指導者として活動してしました。土曜日に活動しているのですが、場所探しに困っていました。

フィランセ一階のリハビリルームが土曜日はいつも空いているので、ぜひ貸して欲しいと申し込んだところ、十八歳以上でないと使えない。またこの部屋は貸しだしていいので貸すことは出来ないとの返事です。たしかにリハビリルームは貸し館ではないので、断られたのはわかります。この場合社会的に考えて私は、何で使えないのか不思議な感じがします。今述べたのは、ほんの一部の事例にすぎません。不登校の子供たちが、部屋を借りて勉強したいといつも、ここは高齢者と障害者の利用するところだからと断るし、車椅子、知的障害者と支援者が、ヨサコイの練習をしたいといえは、た

とえテープでも音が出るものを使うので、利用させられないと断われます。近所やフィランセを利用している人の迷惑になるから音は駄目という理由です。利用者に対して一律に線を引いて、利用を断るのではなく、市長の言う「市民に軸足をあいた」というスタンスで考えて欲しい、利用者の状況をよく考え、たとえ駄目でもいっしょに良い方法を考えるぐらいの気持ちで、窓口の人に欲しいと要望しました。

施設入所ではなく、地域生活にシフトが必要になってきている今、多方面の分野の専門家が一同に会して迅速に対応できる相談業務、ジョブコーチ（障害者の就労支援員）、他にも新しいニーズがたくさんできています。それらニーズに対応できるように、フィランセを柔軟に活用できる準備はあるのか、確認と要望をしました。

とえテープでも音が出るものを使うので、利用させられないと断われます。近所やフィランセを利用している人の迷惑になるから音は駄目という理由です。利用者に対して一律に線を引いて、利用を断るのではなく、市長の言う「市民に軸足をあいた」というスタンスで考えて欲しい、利用者の状況をよく考え、たとえ駄目でもいっしょに良い方法を考えるぐらいの気持ちで、窓口の人に欲しいと要望しました。

障害者 支援制度が スタートして

福祉の基礎構造改革の二本柱。その一つは、ご承知のとおり平成十二年四月にスタートした介護保

険制度です。もうひとつの柱となる、障害者の「支援費制度」がこの十五年四月にスタートしました。国が大きく出してきた方針は

施設入所から地域生活に移行していくということです。地域生活といっても、家庭に返すのではなく、グループホームや生活寮、ケアアツきでの一人暮らし等をさします。宮城県は、「コロニー」と呼ばれ数千人が暮らす入所施設の大集団を解体すると宣言しました。長野県も同じ方針です。すでに、施設から地域にグループホームという動きは始まっています。

施設からグループホームへひとたび出た人は、もう二度と施設には戻りたがりません。施設には絶対入らない！と宣言している知的障害者本人たちのグループもあります。施設に入りたいと思っていない障害者はいません。

これまでは、障害者の家族は、親が介護できなくなるぎりぎりまで在宅で公的な援助らしい援助もなく暮らしていました。小規模授産所や、理解のある会社に通うことができるようになってはきましたが、親が介護や世話ができなくなるのと施設入所の違いが残されています。家族介護の在宅

生活か、保護と管理の施設入所か、どちらかしか選択の余地はなかったのです。

支援費制度はこれまでの施設一本やりの予算措置に変わって、地域生活を実現するために大変期待がもたれています。なかでも、ヘルパー派遣事業は、グループホームと並び、地域生活を支える柱となるものです。障害者のホームヘルプサービスは、強いこだわりやバニック、てんかん発作等一人一人介助の仕方が異なりかなり大変です。その分利用者にはこんなにいいサービスはない！と大変好評です。今までは「自分が病気になる」と子供の介護に困り果てる

「ほかの兄弟の行事に参加できない」「年毎に子供は大きくなり、親は体力が落ちてくる、先のことまで考えると不安だらけ」「このままでは、死んでも死に切れない」等々先の見えない不安でいっぱいでした。

支援費制度がスタートしてホームヘルプサービスが、どんなに重い障害者にも使えるようになりました。在宅生活をこうして支援すること、介助者のゆとりと安心が生まれ施設入所を視野に入れなくて済むようになります。

当事者が自分にあつたサービスを選ぶことができるという理念はすばらしい支援費制度ですが、予算も不安定、制度自体が試行錯誤している状況です。どんなハンデを持っていても地域で自分らしくいきいきと暮らせるような質の高いサービスをいかに地域に展開できるかこれからは尽力していきたいと思えます。



就学 指導って…

「ノーマライゼーション」この言葉をはじめて聞いたという方はないのではないかと思います。

やっと日本でも認知されてきました。どんなに重い障害を持っていても、まち外れの施設や病院では

なく、住み慣れた場所で、当たり前のように暮らしたい。街の中、人の中で生きてこそ人は輝くのです。そのノーマライゼーションの浸透とともに、障害者が様々な支援を受けながら地域の中のグループホームや、アパートに住むことが当たり前のこととして浸透しつつあります。真のノーマライゼーションの実現には、小さいときから障害を持つ人もそうでない人も共に学び育つことが重要だといわれています。ところが、教育委員会には就学指導委員会なるものがあるが、障害児が普通学級に入学しようとするのを阻止してきました。全国的には、分離教育ではなく親や本人が望めば、障害の重い軽いは関係なく普通学級で共に学ぶ子どもたちが増えてきています。

富士市でも、何人もの障害児の家族が教育委員会との辛いやり取りを経てやっとの思いで、普通学級で学んできました。親に介助を強制したり、何の支援もなかったりということも多々ありました。福祉の流れが大きく変わりました。今になっても、ここ富士市では

「養護学校に進路をかえます」と「養護学校に進路をかせます」と親が言うまで教育委員会の執拗な

買めにあっています。この四月に入学するひとは夫がうんざりして「おまえもうやめてあげ。」と養護学校に進路を変更せざるを得ませんでした。もうひとは、ご夫婦で頑張ったのですが、とうとう、サポートが必要になるほど母親が精神的に追い込まれて、実家に戻り引越しも考えました。学区の小学校を見ると恐怖さえ感じるようになりました。「ここまでは、普通級から養護学校に締め出したいのですか？」私は教育委員会にかけこみました。同時に富士宮市でやはり身体障害を伴う子どもが普通学級を希望しました。最初は、養護学校にと指導していた教育委員会も親の意思が大きいとわかると、学校へ入学してから困らないようにいろいろ工夫しながら支援しようとしています。

「高齢者や障害者の扱われ方を見るとその国の品位がわかる」といった外国のドクターがいます。国際障害者年の国連決議には「その構成員のいくらかを排除する社会は弱くもろい」とあります。富士市がひとりひとり輝くことのできる品位のある真に豊かな社会になるよう、活動していきたく思っています。

寄稿

平和尊重の立場を 選択して！

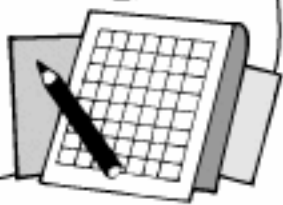
石坂在住 竹内 和恵

戦争で空襲にあった工場や民家の焼け跡が遊び場だった小学校の頃、私は、戦争の残酷さや悲惨さを親や教師から聞かされた。そして、母に「いつの間にか戦争一色になった。それに戦前は女の人には選挙権がなかったから、戦争に反対したくてもできなかったと思う。反対した人もいだけと牢獄に入れられていた。戦後、新憲法ができて二度と戦争をしません。軍備を持ちません。て決められたこと、女の人にも選挙権が持てるようになったことがよかった」と話してくれたことが、今更ながら思い出される。日本は戦後初めて復興支援をするとして武器で武装した自衛隊をイラクへ派遣した。

国民の多数が自衛隊の



戦争で空襲にあった工場や民家の焼け跡が遊び場だった小学校の頃、私は、戦争の残酷さや悲惨さを親や教師から聞かされた。そして、母に「いつの間にか戦争一色になった。それに戦前は女の人には選挙権がなかったから、戦争に反対したくてもできなかったと思う。反対した人もいだけと牢獄に入れられていた。戦後、新憲法ができて二度と戦争をしません。軍備を持ちません。て決められたこと、女の人にも選挙権が持てるようになったことがよかった」と話してくれたことが、今更ながら思い出される。日本は戦後初めて復興支援をするとして武器で武装した自衛隊をイラクへ派遣した。



活動報告

- 1月20日 県本庁 地域福祉推進委員会
- 29日 富士ひのき加工協同組合見学
- 30日 沼津養護学校進路講演会 講師として
- 2月 2日 合併問題協議会
- 7日 地域生活支援シンポジウム参加 (静岡市)
- 8日 生ごみは宝の山だ (循環型社会を目指して) 講演会参加
- 18日~3月19日 2月定例会
- 20-22日 滋賀アメニティフォーラム参加 (大津市)
- 28日 福祉をすすめるみんなの集い富士集會参加
- 3月 2日 はなみずき総会
- 21日 でらーと落成式
- 25日 就労支援セミナー参加
- 26日 環境クリーンセンター見学
- 4月15-16日 全国議員研修 (滋賀県彦根市)

- その他
- ・成人式やびな林創造事業等の市の行事や4月5月に集中する各団体の総会に多数参加。
 - ・重度障害通所施設でらーとの4月開所に向け、職員採用面接から、法人登記、各種中間・完成検査、落成式準備理事会準備等に奔走。
 - ・重度障害者期の会のはなみずきの会長として障害者のリハビリ充実について活動中。
 - ・福祉関係の事業所や相談員等訪問し現況と今後の方策を考えるため研究中。

個人的には3年前の義父に続き同居の義母が介護保険を使おうとした矢先、この3月31日に亡くなりました。



4月5日 重度障害通所施設でらーとがオープンしました。お近くにお越しの際はお気軽にお寄り下さい。ボランティアに来ていただける方大歓迎です。富士市伝法 広見公園東市立博物館隣りです。



小澤映子後援会事務所

〒417-0001 富士市今泉5-6-45
TEL・FAX 0545-52-5299
メール ozawa-imaizumi@thn.ne.jp
URL <http://web.thn.jp/ozawa/>